

2020年8月7日

通期業績予想についてのお知らせ

長引く米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの収束が依然不透明な中、合理的な通期業績予想の算定を行うことが困難であるため、当第1四半期においても2021年3月期(52期)の業績予想について未定とさせていただきます。

現時点において、第2四半期決算発表時に通期業績予想の開示を予定しております。

現在、半導体資材・衛生検査器材の2大コア事業においては他の産業と比較し、極端な受注の落ち込みは少ない状況の中、『内部留保を厚くする』為の施策として、生産の密度を向上し、培地製造以外のシャーレ、半導体資材日本生産の稼働日を減らし、併せて間接部門においても輪番制出勤による全社での一時帰休を4月より実施しております。雇用調整助成金の申請と極端な在庫圧縮、稼働調整による光熱費の削減を進め、費用の流出を最小限に抑えて参ります。

【各事業の今後の見通しについて】

① 半導体資材事業

液晶テレビの市況において確実に回復の兆しが見えて来ております。当第1四半期まで続いた落ち込みをカバーし、通期スペーサーテープの出荷数量は再び、プラスに転じる見込みです。

② 衛生検査器材事業

受注額の減少は5月で底を打ったと考えており、通期での減収幅は5～10%以内で着地する見込みです。

③ PIM事業

高機能部品の受注回復の見通しが依然、不透明な状態が続いております。自動車部品事業については2021年中旬の量産を目指す、ターボ部品の試作イベントに注力致します。

第2四半期決算発表時に通期業績予想の合理的算定が可能となるべく、特に2大コア事業の市況を精査して参ります。

以上